さいくうあと通信

発　　行　明和町　斎宮跡・文化観光課
（明和町大字馬之上 945 番地）
電話：0596-52-7126　FAX：0596-52-7133
E-mail：saikuuato@town.mie-meiwa.lg.jp

明　星　特　集

南勢屈指の大寺院「安養寺」

ー中世に栄えた安養寺ー

上野地区の安養寺（あんようじ）は、かつてこの地域で屈指の規模を誇った大寺院で、現在の済生会明和病院の敷地内にありました。

安養寺は、京都五山の一つ臨済宗東福寺（りんざいしゅうとうふくじ）に属する寺で、伊勢国出身で東福寺第九世だった癡兀大惠（ちこつだいえ）が鎌倉時代の永仁（えいにん）5 年（1297）に開山しました。室町時代には幕府や伊勢国司の北畠氏から手厚い保護を受けていましたが、天正（てんしょう）4 年（1576）、戦火で焼失したと伝えられています。その後、天正 16 年（1588）、伊勢街道が付け替えられた頃、現在の場所に移されました。

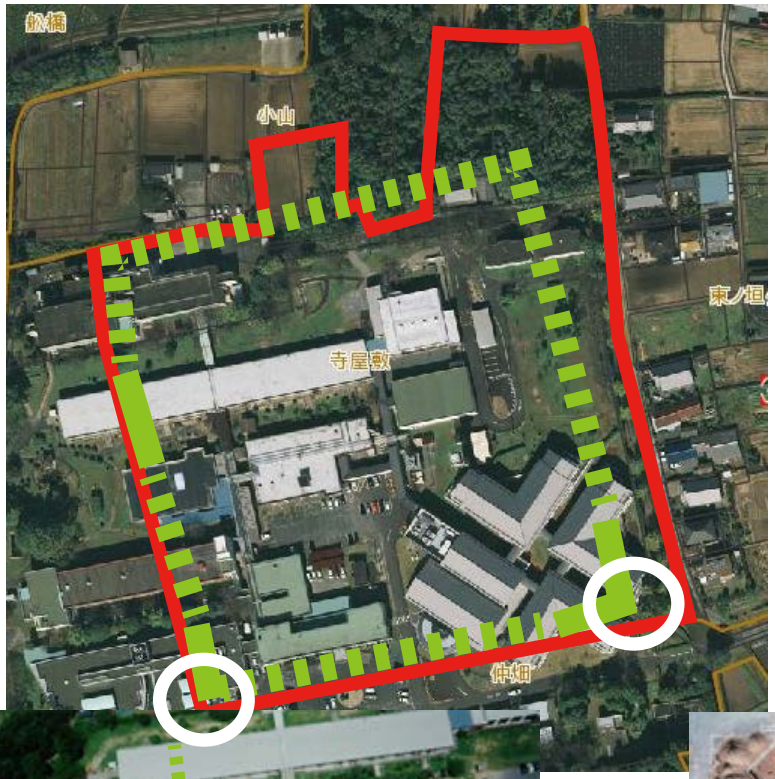
現在の安養寺

ー古文書から垣間見るかつての繁栄ー

安養寺には数多くの貴重な古文書が保管され、県指定文化財となっています。史料の内、貞治（じょうじ）5 年（1366）の『足利義詮御教書写（あしかがよしあきらみきょうしょうつし）』では「安養寺を諸山に列する」とあり、室町幕府の保護がうかがえます。諸山とは、室町幕府が定めた「五山十刹（ござんじっさつ）」の次位にあたる寺格で、安養寺の地位の高さを示しています。その他にも、密教において師が弟子に秘法を伝授したことを示す「印信（いんじん）」と呼ばれる証明書も多く残されています。このことから安養寺が教学の場として栄えたと考えられます。

ー黄金の御所車伝説ー

また、地元では安養寺にまつわる「黄金の御所車」伝説が残されています。伝説では、伊勢神宮を参詣した菅原道真（すがわらのみちざね）が京への帰り道に安養寺で休息を取り、乗ってきた黄金の御所車を埋めていったというものです。戦前には伝説を確かめようと、「黄金の御所車」を探したこともあるようです。伝説の真偽は不明ですが、歴史上のビッグネームと高価な財宝と結びつけてしまうほど、安養寺が大きな力を持っていたといえます。



上：発掘中の大溝

左:安養寺に関連する「寺屋敷」の地名範囲（赤線）と大溝の範囲（緑線※実線は発掘調査で明らかになった箇所、破線は推定）

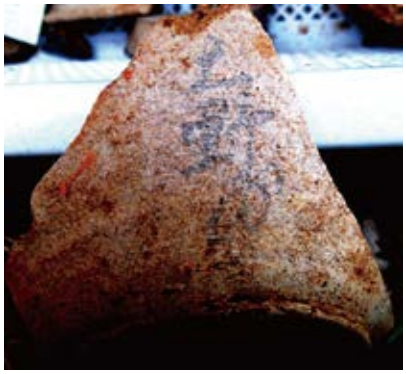
西側部分の大溝

南東部分の大溝

安養寺については、これまで古文書や地元の伝承でしかわかっていませんでした。しかし、明和町が行った発掘調査によって、寺の規模などが少しずつわかってきました。調査では寺域を囲う大きな溝などが見つかっています。大溝は、幅約 4 ～ 5m、深さ約 2m の大規模なもので、南東側のコーナーが見つかりました。さらに、大きな溝に続くと思われる溝が数箇所で見つかっており、安養寺全体の規模は東西およそ 170m、南北およそ 180m の非常に広大な敷地を有していたと推定されます。今後、調査結果の整理や出土した品々の分析を通じて、安養寺の姿がより鮮明にわかることが期待されます。

中国で作られた高価な青磁香炉。

僧侶の名前が記されています。



「上野」の文字が見られます。